

## 大分県 廣瀬勝貞 知事 殿

私は、国連（ECOSOC）の認証国際農業アカデミー（IFDA）の創設を準備されている牧野光先生から設立準備東京本部長を仰せつかっている大脇準一郎と申します。

数年間このプロジェクトをお手伝いして、痛感する心情の一端を知事様宛に投函させて頂きましたので、一両日中には到着することと存じます。

陳情書とともに、その経緯と背景に関する資料を添付させていただきました。資料は膨大なものとなりますので、できるだけサイトにリンクするように努めました。そのうち、特に関係が深い幾つかの情報を印刷し同封させて頂きました。

知事様に直接お手紙を書かせて頂きました理由は、陳情書でも述べましたように、このプロジェクトが現状のまま推移すれば、昨年11月に折角受けた国連認証が、数ヶ月後に解消されてしまう状況にあるということでもあります。

この状況を打開するための唯一の道は、知事様のご指導により、このIFDA構想に関心をお寄せ頂きました関係者の公聴会を開催して頂き、牧野先生の強い情熱に基づく本プロジェクトへの取組みと現状を知って頂きたいと切望しております。牧野先生の志は、高邁純粹であるので、必ずや参加者の感動を呼び起こすものと思います。

大分県産の素晴らしい種を育てるためには、土地、太陽、空気と、農作業に携わる人と機材が必要です。この種は、未だよく見えなくとも、近い将来、きっと世界にユニークな美しい花を咲かせ、実りをもたらし、世界を潤すことでしょう！

かつて筑波大、国際大等多くの大学設立も天の時、人の和、地の利があって可能となりました。大学紛争で多くの大学が1年間休校となった時代に、社会的政治責任を問われた時の自民党政府は、東京教育大の有志が長年温めてきた大学構想に藁をもつかむ気持ちで飛びつきました。もしその時、国会審議に時間を浪費していたら、3ヶ月後起こったオイルショックの波に飲まれて、3000億円、70万ヘクタールの壮大な大学構想、筑波大学立法は廃案になっていたことでしょう！突破力抜群の「仕事内閣」と言われた田中内閣であったればこそ実現したものです。国際大学も、唱道者藤崎信幸氏、これを事務的にサポートした武藤信夫氏の強い情熱と「私が財界に呼びかけてやろう！」と云って中山素平氏（当時、日本興業銀行会長）が腰を上げたので実現しました。他方、現今の国際情勢下において、ジェレンスキー大統領の切羽詰まった訴えに世界各国から、数千億円単位の軍事支援、100兆円規模の復興資金さえ動こうとしています。

大分の土地は、国連（FAO）の世界農業遺産として選ばれ、国連もその土地に関連する施設などが定着することを期待しています。この時期において、幸いにして、卓越した行

政力と指導力をお持ちの広瀬知事様がその職に就かれておられるので、本プロジェクトの実現は、夢ではなく、現実味が極めて高いと考えております。

知事のご英断は、大分県に止まらず、九州、日本、東アジア、さらには世界へ波及し、多くの人々に豊かさをもたらすものと確信する次第であります。

令和4年7月6日

大脇準一郎 拝

国際農業開発アカデミー設立準備事務局東京本部長  
NPO 法人未来構想戦略フォーラム/地球市民機構（市民国連）共同代表